

令和6年度 授業改善推進プラン 家庭科

| 観点別 | | | |
|-----|--|---|--|
| 学年 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な衣食住及び家族や家庭生活に関する基礎的な知識を、掃除や洗濯の体験活動を通して理解させる。 ・道具の名前や用途をしっかりと理解させる。時間を確保する。技能向上に向けて、ものづくりや調理を行う。 ・グループ学習を通して児童同士が教え合い、技能を身に付けられる場を設定する。 ・ICT機器を用いて説明し、手元を拡大したり繰り返し見たりして、お手本と自分を比べて技能向上を目指す。 ・裁縫では、サポートの方に授業に参加してもらい、一人一人に教えてもらえる時間を確保し、技能面の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの際には、計画書を書き、考えを表す時間を十分に確保し、手順をおさえる。 ・同じ課題のグループを編成し、話し合いやアドバイスをを行い製作計画が目的に合ったものか製作手順が適切であるか検討させる。 ・タブレット(カメラ機能、オクリンクプラス)を活用し、衣食住について調べたことを表現させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間には、学校で学習したことを家庭でも実践する機会をつくり、すすんで家庭でも実践しようとする態度を育てる。家庭での取組の後には保護者にフィードバックをもらい、意欲付けを行う。 ・家庭科ノートを使用する。毎時間めあてをもたせ、計画的に学習活動に取り組むことができるようにさせる。 ・活動後には必ず振り返りを行い、課題や成果を確認することで、次時への活動の確認と意欲付けを行う。 |
| 6年 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な衣食住及び消費や環境に関する基礎的な知識を、体験的な活動を通して定着させられるよう、デジタル教材を活用したり、実習の充実を図っていく。 ・裁縫においては、2人で1台のミシンを使う、教え合う時間をとるなど、一人一人がより多くミシンに触れることを通して、確実に技能を身に付けさせる。また、授業時間内に作業が終わらない児童には補習時間を確保する。 ・調理においては、授業で行ったことを家庭でも行うように保護者に協力を求めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の考えや工夫したことなどをICT(オクリンクプラス)を活用して、共有できる機会をもたせる。 ・ICT(カメラ機能、オクリンクプラス等)を活用し、調べたことを表現させ児童同士で共有して参考にさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各時間のめあてを児童に示すとともに、学習後の振り返りを行い、見直しをもって学習活動に取り組むことができるようにさせる。 ・調理実習や掃除など、学校で学習したことを家庭に呼びかけ日常的に家庭で実践できるように協力を依頼し、家族の一員として生活をよりよくしようとする態度を養う。 |